

麻布大学同窓会宮崎県支部総会開催報告要旨

平成26年1月25日(土)、宮崎市の中華料理店において宮崎県支部(以下あざみ会)の総会と懇親会を開催しました。

総会進行は、事務局の安井が行い、定刻に始まり、総会終了後は恒例の懇親会を開催しました。出席者は例年と同じ程度の30名弱でしたが、新卒の白井、橋本両君に加えて吉原夫妻(平成11年、12年卒)の参加が好評でした。総会は終了後の懇親会を控えているためか、くつろいだ雰囲気の中、スピーディーに進行できました。さらに、同窓会本部からの支援金の紹介もいたしました。

総会は長友会長(昭和36年卒)の挨拶から始まりました。宮崎県支部設立の動機や現在同窓会本部との付き合いが出来るようになったことへの本県会員の様々な協力に感謝が述べられました。

事業報告は、会長から代議員会及び評議員会、そして昨年本県が開催県なった同窓会九州連絡協議会の概要が報告されました。

その主な概要は、同窓会維持会員会費の減少が若い会員からの会費納入減少であること、同窓会本部として、大学の創立125周年記念事業に協力すること。記念式典は、平成27年9月12日麻布獣医学園アリーナと(仮称)新食堂で執り行われることや記念事業への寄附金の問題や鹿児島県支部から提案の創立者の與倉氏の銅像建立については現在記念事業検討委員会で検討中である事等が報告されました。さらに大学内の整備も行われており馬術部が正門近くに移り、旧食堂が取り壊されることや同窓会維持会員の年齢制限はないことなどが加えられました。

その後、議案に従い、事務局から予算の決算報告を行い、西元監査役(昭和55年卒)からの監査報告があり、全会一致で承認され総会は終了しました。

懇親会に移行し、黒木副会長(昭和36年卒)の乾杯で宴が始まりました。ともに麻布大学を卒業した先輩、後輩が、年に一度の宴に年齢、職場に関係なく酒を酌み交わし、自己紹介の頃になると淵野辺時代のことなどが飛び出し、約3時間の宴席がアツという間に過ぎ、瀧口副会長(昭和39年卒)の三本締めで平成25年度の「あざみ会」の総会と懇親会はお開きとなりました。

年1回の宮崎支部の会員相互の懇親を深めお互いの近況を出し合う会員数の少ない総会ですが、県内で発生している豚流行性下痢や発生が懸念されている鶏インフルエンザなどの防疫にも重要な役割を担っている麻布大学同窓の集まりを確認できた総会と懇親会でした。

そのあと、いくつかのグループに別れて夜の街に消えて行きましたが、行き先は定かではありません。

(宮崎県支部事務局 安井千俊 昭和61年卒)

